



## 話題提供 「次期ILLシステムの検討議論について」

佐々木, 智穂

---

**(Citation)**

オンラインフォーラム『ILL/DD サービス 2.0 へ向けて』（令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業）

**(Issue Date)**

2023-01-27

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100478597>



話題提供

# 次期ILLシステムの検討議論について

東北大学 附属図書館 情報サービス課 専門職員 /

これからの学術情報システム構築検討委員会

システムワークフロー検討作業部会 委員（統合的発見環境の整備班）

佐々木 智穂

2023年1月27日

フォーラム「ILL/DDサービス2.0へ向けて」

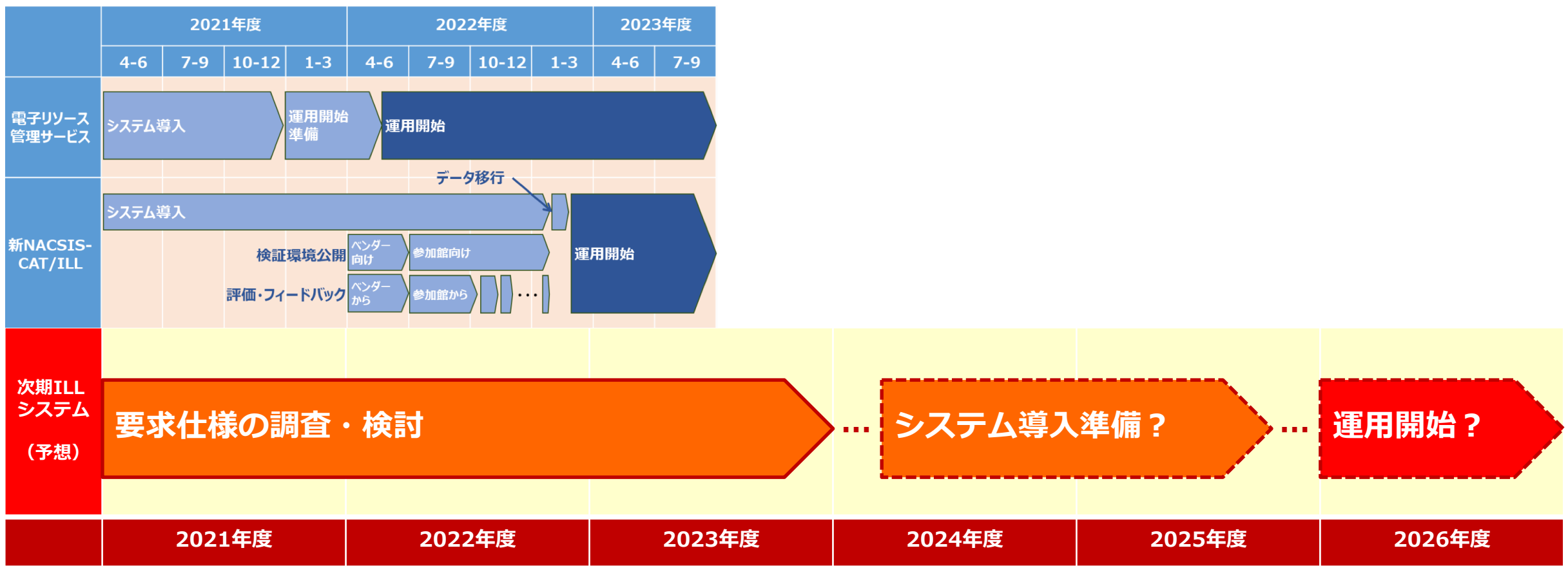
令和4年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業

# 本日の内容について

- ✓ **これからの学術情報システム構築検討委員会**  
(通称「**これから委員会**」) の  
**システムワークフロー検討作業部会**において、  
**次期ILLシステム (2026年度運用開始予定)** に向けて  
**現在検討している内容**について、  
佐々木の私見を交えつつお話しします。

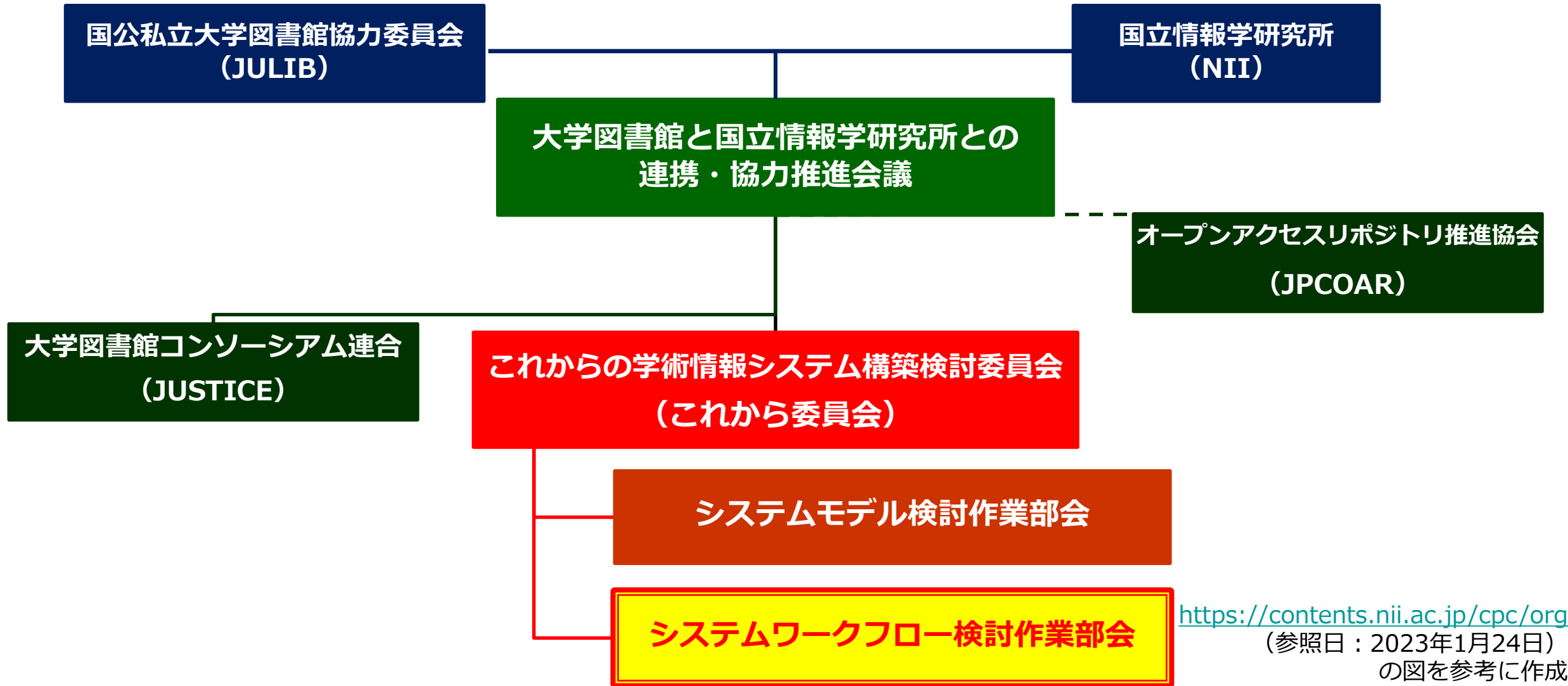
- ※2023年1月現在システム移行が行われている「**新NACISIS-CAT/ILL**」の  
**さらに次の世代のシステム**に関するお話です。
- ※本発表の内容は、すべて現在検討中のものです。今後の実現を保証するものではありません。  
また、発表内容に関する責は、すべて佐々木にあります。

# 「次期ILLシステム」導入スケジュールのイメージ



<https://www.nii.ac.jp/news/release/2021/0617.html>  
 (参照日：2023年1月24日) の図に加筆

# 「これから委員会」の組織的位置づけ (2023年1月現在)

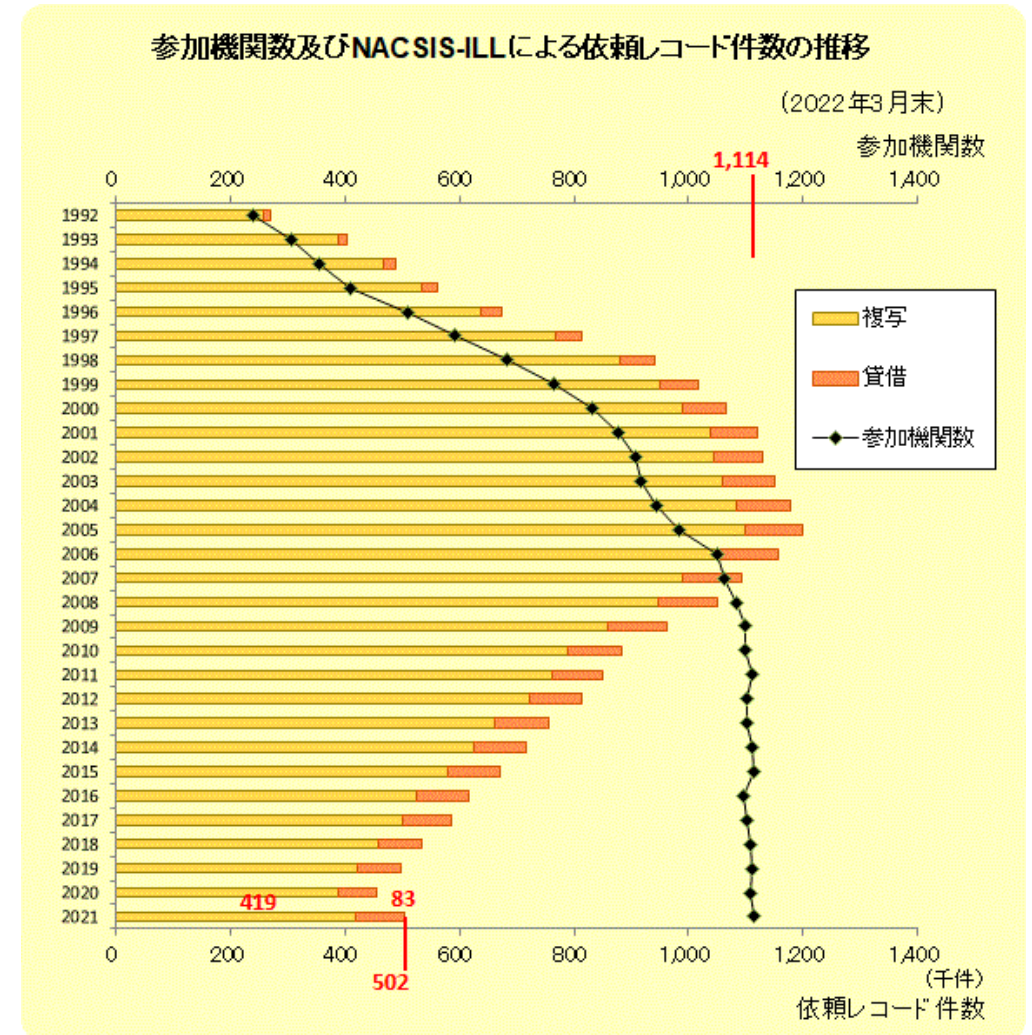


<https://contents.nii.ac.jp/cpc/org>  
(参照日: 2023年1月24日)  
の図を参考に作成

# NACSIS-ILLのこれまでの歩み（抄）

- 1980年 「今後における学術情報システムの在り方について」
- 1985年 NACSIS-CATサービス開始
- 1992年 **NACSIS-ILLサービス開始**
- 1994年 BLDSC依頼サービス開始
- 1996年 国立国会図書館依頼機能開始
- 2002年 GIF（Global ILL Framework）プロジェクト開始
- 2004年 ILL文献複写等料金相殺サービス開始
- 2007年 国立国会図書館依頼機能終了
- 2011年 BLDSC依頼サービス終了
- 2012年 **これからの学術情報システム構築検討委員会設置**
- 2015年 「これからの学術情報システムの在り方について」
- 2018年 GIFプロジェクトおよび日米ILL/DDサービス終了
- 2019年 「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」
- 2022年 日韓ILL/DDサービス終了

時代の変化に応じて  
サービスの内容も見直し



<https://contents.nii.ac.jp/catill/stats/ill/reqnum>  
(参照日：2023年1月24日)

# 「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」

## 1. 取り巻く環境の変化

- ✓ **電子情報資源の普及**により、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌
- ✓ 研究者、学生の**情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするもの**になっていることへの対応

**この流れはコロナ禍で  
ますます加速！**

## 2. 2018年度までの検討

- ✓ 従来のNACISIS-CAT/ILLシステムが提供する印刷体を中心とした書誌情報の供給及び資源共有の機能を維持しつつ、各機関がより豊かな機能（電子情報資源のワークフローをサポートする機能や、電子情報資源と印刷体のワークフローが一体となったシステム、**電子情報資源も含めたILL機能**等）を**選択的に導入できるシステム構築を目指す**べきことを確認

**電子情報資源や共同調達・運用に対応した  
新たな図書館システム・ネットワーク**

[https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2021-02/korekara\\_doc20190215\\_0.pdf](https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2021-02/korekara_doc20190215_0.pdf)（参照日：2023年1月24日）

# 「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」

## 3. 進むべき方向性

- ① 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークの構築
- ② 持続可能な運用体制の構築
- ③ システムの共同調達・運用への挑戦
- ④ メタデータの高度化
- ⑤ 学術情報資源の確保

## 4. 2019年度以降に取り組むべき課題

- ① 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築
- ② 持続可能な運用システムの構築
- ③ システムの共同構築・運用に向けた課題検討

[https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2021-02/korekara\\_doc20190215\\_0.pdf](https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2021-02/korekara_doc20190215_0.pdf) (参照日：2023年1月24日)



# 「これから委員会」の体制 (2019年度～)

## これからの学術情報システム構築検討委員会

- 「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項の企画・立案
- 学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進

## システムモデル検討作業部会

- 運用モデル・体制やコミュニティ形成、図書館システムの共同調達等に関する検討

## システムワークフロー検討作業部会

- 電子情報資源・印刷体の統合的発見環境の実現、  
電子情報資源のデータ共有、メタデータ流通の高度化等の検討

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/about> (参照日：2023年1月24日) 等を参考に作成

# 「電子情報資源・印刷体の統合的発見環境の実現」

キーワード：**統合的発見環境**

- ✓ 電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し
- ✓ さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる
- ✓ 国レベル及び各図書館レベルの環境

システムワークフロー検討作業部会  
統合的発見環境の整備班 検討メンバー

(氏名五十音順、所属は作業部会在籍時)

磯本 善男	(2019年度～・北海道大学 → 千葉大学)
小川 夏代子	(2021年度～・東京大学)
佐々木 智穂	(2021年度～・千葉大学 → 東北大学)
佐藤 知生	(2022年度～・神戸大学)
塩崎 亮	(2019年度～・聖学院大学)
田口 忠祐	(2019年度～・東京大学)
野間口 真裕	(2019～2021年度・京都教育大学)
藤江 雄太郎	(2019～2020年度・大阪大学)

「統合的発見環境の実現」の観点に立って  
次世代ILLシステムの在り方を検討

# 次期ILLシステムの検討ポイント

## NACISIS-ILLの現状

### ✓ 代替入手手段の多様化と取扱件数の減少

- 電子情報資源の普及やオープンアクセスの進展

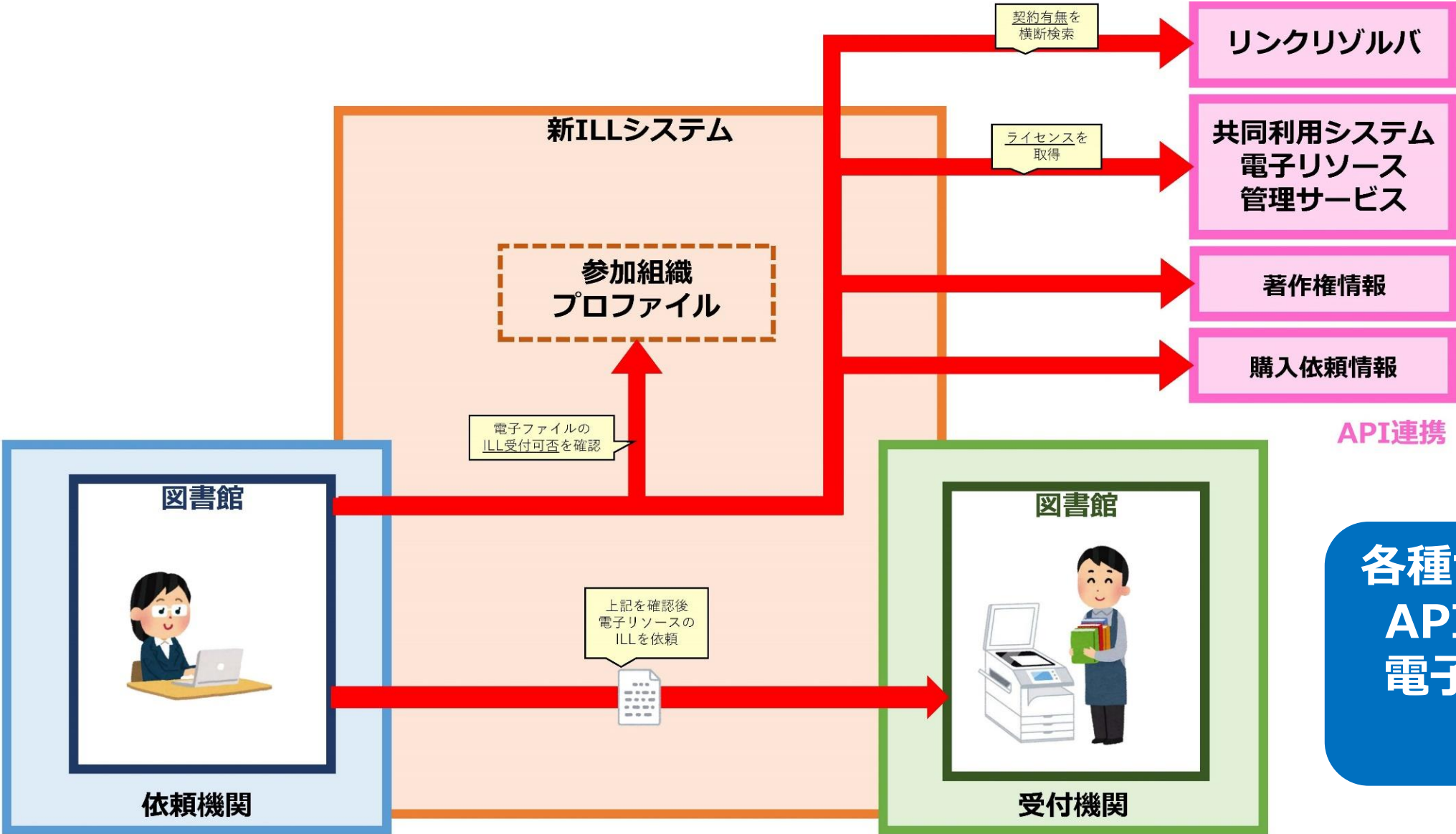
### ✓ システムの複雑化による高コスト化

- CATPを含む日本独自の仕様
- 事実上のベンダーロックイン状態によるシステムのブラックBOX化

次期NACISIS-ILLに求めること

- ✓ 合理化
- ✓ 効率化
- ✓ 高機能化

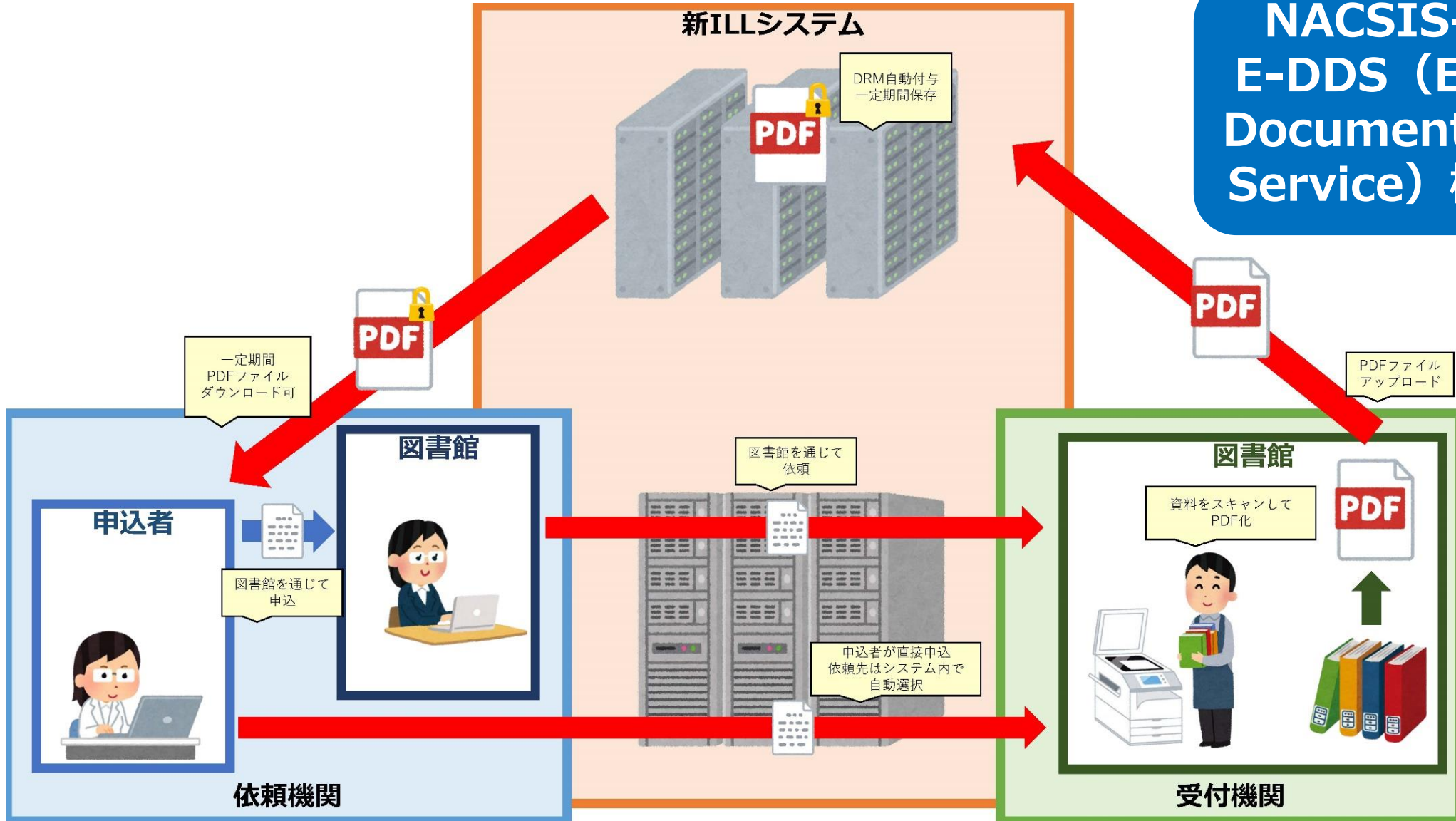
# 電子情報資源のILL



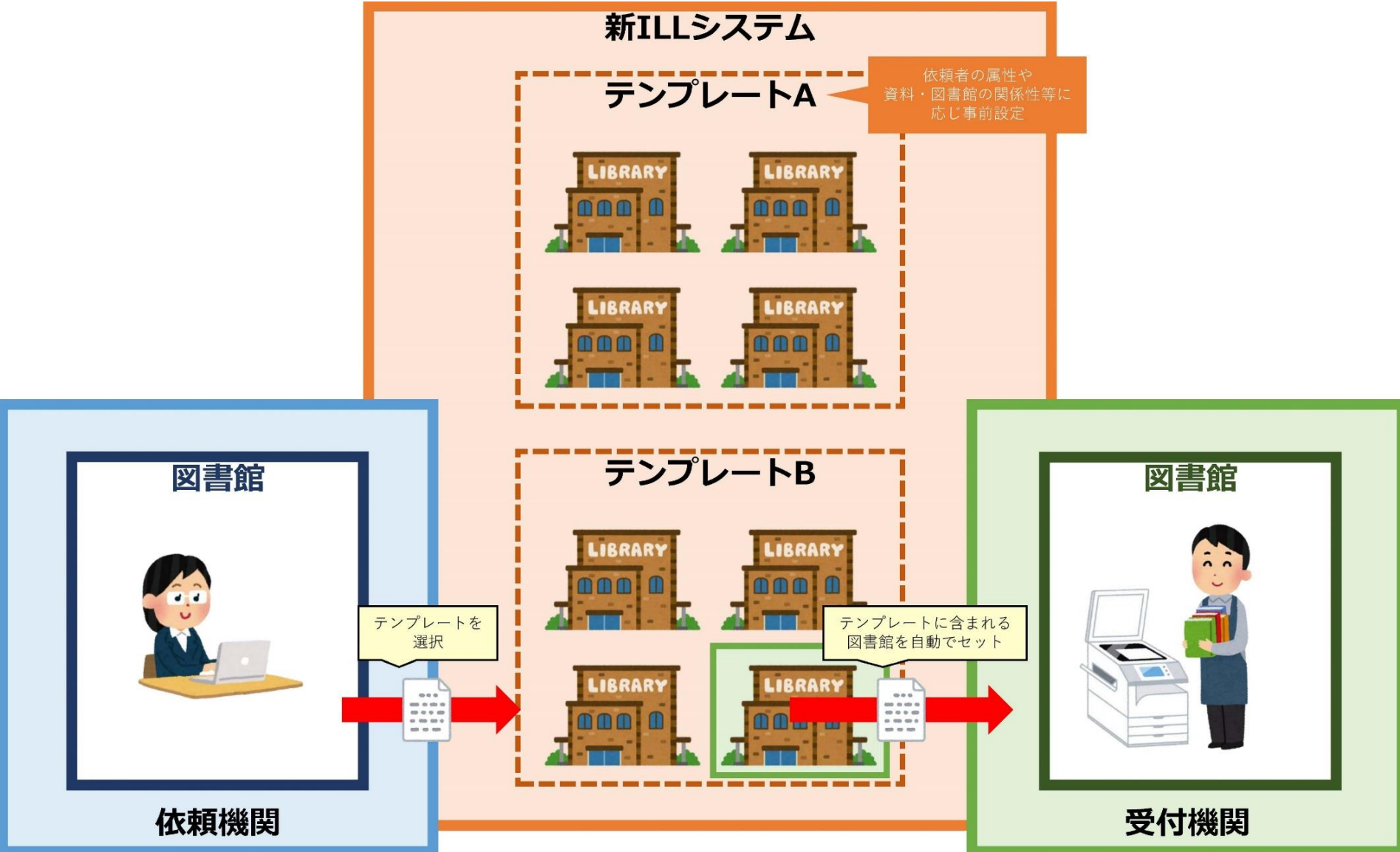
各種サービスとの  
API連携による  
電子情報資源の  
ILL対応

# E-DDS機能の導入

NACISIS-ILLへの  
E-DDS (Electronic  
Document Delivery  
Service) 機能の追加



# 依頼先選択の自動化による負荷分散



参加機関間で  
事前に取り決め

+

システムによる  
各機関における  
処理時間／件数の  
リアルタイム把握

# 参加組織の運用ポリシーの明確化

## 新ILLシステム

### 参加組織プロフィール

以下をフィールド追加もしくは自動切り出し

- (a) 料金（白黒・カラー・マイクロリーダプリンタによる複写（円/枚））
- (b) 貸借期間
- (c) 送付方法
- (d) 借受資料の館外持出可否
- (e) 運用上の電子ジャーナルからのILL可否
- (f) 基本料（円/件）

- 業務効率化（←依頼先選択の時間短縮、照会・謝絶の減少）
- 参加館全体での課題および統一ルール策定可能項目の可視化

各組織ポリシーの  
判別自動化による  
依頼時の負担軽減  
および  
謝絶の削減

# 決済機能の強化

## 様々な可能性を検討

### ✓ ILL文献複写等料金相殺サービスの維持

- ただし費用対効果の検証は避けられない

### ✓ キャッシュレス決済の導入

- 非来館型利用への対応

### ✓ 料金無料化

- 機関内での事務手続き省力化

### ✓ バウチャーの導入

- 機関間の料金決済システム自体が不要に



…などなど



# おわりに（佐々木の私見）

✓ 「“電子ジャーナル=水道” “ILL=井戸汲み”」説

(by 竹内比呂也先生@千葉大学)



日本の学術情報流通における  
セーフティネットとしての“NACSIS-ILL”

✓ 研究・教育プロセスのDX化が急速に進展しつつある中、  
20世紀後半の活動様式に最適化されたシステムを  
今後どのように進化させていくべきか？

現場からのボトムアップで  
一緒に考えていきましょう！

# ご清聴ありがとうございました。



<https://contents.nii.ac.jp/korekara>

検討議論に関する最新の情報は  
これからの学術情報システム検討委員会のWebサイトを  
是非チェックしてください！